

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

基本方針1 市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます。				
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
1 1	委員K	基本方針の下で設定された全体目標がいずれも達成できなかったのは、市民を「連携」と「協働」に導くことが十分でなかったことにあると思います。そして市民の参画を得るには以下の3要素が重要であると考えます。 「頭」：何が環境に良いのか悪いのかを判断する知識 市の資料によれば、知識としての情報は整備されているようですが、市民に浸透しているとは思えません。 「心」：自己の利益より環境保護を優先させる倫理観 倫理観を高める市の啓発プログラムが、市民の行動選択に影響するレベルに至っているとは思えません。 レジ袋有料化のような法規制や、自治会の組織を利用した江戸時代五人組のような相互監視は避けたいところですが、状況いかんでは限定的利用も検討に値するのではないのでしょうか。 「ふところ」：環境に良い行動を選ぶ金銭的インセンティブ 金銭的インセンティブは、ごみ処理手数料金額の例に見られるようにまだまだ不十分であると考えます。 協働と連携への市民の参画を得ることを最大課題として、既存の基本方針や基本計画や関連諸施策を見直してはいかがでしょうか。	環境政策課	第2次計画では、前計画の評価・検証を行い、市民、事業者との協働、連携が重要な課題と認識し、「市民、事業者との連携を強化し、共働による取組を進めます。」を基本方針の最初に位置付けています。 計画期間内での基本方針の見直しは予定しておりませんが、いただいたご意見を参考に、基本方針1に基づき、毎年度の事業計画を作成いたします。
2 1-1-1	委員H	3R学習の充実については、学習内容を具体的に教えていただきたいです。場合によっては学習内容の見直しも必要かと思えます。事業系可燃物は、プラスチック類は、混入できない等を説明することにより商業施設や、パート先での廃棄物の出し方の意識が変わる可能性もあるかと思われます。	3R推進課	子ども向けの3R学習、「なぜごみを減量しなくてはいけないのか?」「3R(リデュース・リユース・リサイクル)の説明や具体的な行動事例」「資源とごみの処理工程(DVD鑑賞)」「実際のごみ収集車を使用した収集車の仕組みの説明やごみ収集体験」という内容で行っています。 プラスチックの分別については大人向け講座では説明していますが、子ども向けについては実施時間の都合もあり、地域によって分別が違うことは触れていますが具体的な品目の説明はしていません。なお、子ども向け講座ではプラスチックによる環境への影響について多少触れています。 事業系ごみに関する学習については、ご意見を参考に検討していきます。
3 1-1-1	委員L	3R学習の充実によって、市民の行動が具体的にどう変化し、それがどの程度ごみの減量、資源化に影響を及ぼすかを明示すべきだと思います。	3R推進課	ごみの減量、資源化への影響など、取り組みを進めた結果や評価については、次年度に行う事業評価の際に明示しております。
4 1-1-1	委員B	焼却施設や生ごみのバイオマス施設の稼働後、運営に支障のない範囲でできるだけ早く市民の施設見学を受入れ、ごみ減量への理解を深めてもらう。	資源循環課	新施設を市民の皆様等にご覧いただけるよう、体制を整えていきます。 受入方法等につきましてはホームページ等でご案内します。
5 1-1-1 1-1-2	委員C	「3R学習の充実」はぜひとも進めていただければと思う政策です。その際、たとえば出前講座の内容を検討する際に、「1-1-2 担い手づくりに向けた取組の推進」の部分で言及されているごみ減量サポーターにも出前講座の内容を一緒に考えてもらうなど、さまざまな協働の在り方を考えてはどうかと思います。	3R推進課	出前講座の内容については、ごみ減量サポーターに対して、研修会や年度末の報告書・アンケートなどでご意見をいただき、参考とさせていただいています。 ごみ減量サポーターについては、講座の内容について地域に持ち帰っていただき、講師になっていただけるような働きかけをしています。
6 1-1-1 1-3-3	委員M	ごみの減量現状啓蒙について 市の現状の周知 2019年1人1日あたりのごみ排出量 768g 全国平均 918g 最低 294g(長野県川上村)目標値 782g(達成しているが適正値かの検証)	環境政策課	第2次計画では目標値を精査し、ゼロエミッション東京戦略で掲げられている廃プラスチック焼却量40%削減(2017年度比)、食品ロス発生量50%削減(2000年度比)を参考に、1人1日あたりごみ量を714gに削減することを目標としています。
7 1-1-1 1-3-3	委員M	家庭系生ごみの現状周知 2020年 燃やせるごみのうち約35%が生ごみ生ごみの水分含水量が多いと焼却炉温度が下がり、燃料費が嵩み、ダイオキシン発生にも影響。環境負荷低減が求められる中、生ごみの量を減らすことは大命題。	環境政策課	市としても、生ごみの量を減らすことが重要と考え、アクションプランの中でも、重点事業に設定しています。
8 1-2-1	委員C	「コンビニなどで手前から食品を取るキャンペーン」は興味深いですが、単にキャンペーンを行えば消費者が手前から食品をとるのかどうかは疑問が生じます。難しいかもしれませんが、コンビニに協力(調査)をお願いし、どのような要因があると、手前からとってもらいやすいか、という点についての情報を収集し、スーパーなどでも応用していくことができるとよいのではないかと感じました。	3R推進課	「てまえどりキャンペーン」のほか、独自の取組を実施している事業者者に情報収集を行い、市内の他事業者にも取り組みを拡げてまいります。
9 1-2-1	委員M	事業系ゴミではフードロスや賞味期限の問題も見逃せない。食べきりも有効であるが、割引販売等の導入等で大型店やコンビニ・チェーン店の事業者の協力を得るよう要請し、実践してもらえればごみ減量に大きく貢献できるとも考える。	3R推進課	セブンイレブンなどと協働して、市民の方のリデュースの意識啓発のため、また事業者の食品廃棄を減らすため、消費期限の近いものをご購入していただくための「てまえどりキャンペーン」を行いました。 引き続き、セブンイレブン他の事業者と協力をし、家庭ごみの減量に取り組みます。

基本方針1 市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます。

項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
10 1-2-1	委員G	『ごみ減量・リサイクル推進』を町田市と市民・事業者が連携していくためには、意識を変える・行動を変えてもらうことが大切です。イベント会場・ネットでのPRも大切ですが、実際にごみが出る場所(買い物する場所・消費する場所等)で意識を変えていただき行動を変えていただくことをアピールすることが重要。 例 スーパーの洗剤売場にエコボトルに『町田市推奨エコボトル』など 買うものを選ぶときにエコの商品、リサイクル方法等を明記した 販促物があると買う時点で意識・行動が変わり、買った後の意識が変わる。 イベント・ネットは元々ごみの分別等興味のある方が見聞きするので効果は1部になってしまうが、店舗で行えば買う人・消費する人の多くの方にPRし効果が大いだと思います。	3R推進課	町田市が認定しているマイボトルOK店や食べきり協力店については、店舗でのステッカーやポスター掲示、ガイドブック配布等による周知を行っています。引き続き、事業者と効果的なPR方法について検討してまいります。
11 1-3-3	委員A	対面での啓発活動が難しい状況にあるので、1-3-3にあるような、SNSや動画配信などを活用するとよいのではないか。(週に1回、「これは不燃ごみです」+市民が判断に迷いそうなごみの写真を投稿するなど)	3R推進課	現在対面での啓発活動が難しくなり、SNS、動画配信による啓発活動・分別ルールなど情報発信を積極的にを行っています。手法や内容について検討し、実施していきます。
12 1-3-3	委員L	各種情報ツールを活用した情報発信をすることで、おおよその影響力を数字で明示した方がよいと思いました。	3R推進課	ごみの減量、資源化への影響など、取り組みを進めた結果や評価については、次年度に行う事業評価の際に明示しております。
13 1-3-3	委員B	協働するうえで大切なことのひとつが情報の共有化である。発信した情報が伝えたい人や団体に届いているかの確認が大事であり、協働する者どうしがフラットに意見交換が行えるような仕組みづくりも重要だと思う。	3R推進課	協働している団体や講座を受講した市民団体、教育機関など 振り返りや意見交換を行うことで市民ニーズを把握し、講座内容に反映しています。
14 1-3-3	委員E	町田市のごみ環境の現状と、新しい資源化施設の取組を市民に理解してもらう施策を。	環境政策課	広報紙の「ECOまちだ」や「ごみ資源化施設建設NEWS」で引き続き情報を提供していく他、SNS等を活用した情報発信も行っています。
15 1-3-3	委員G	ごみ分別アプリを実際にダウンロードしましたが非常に分かり易く、便利だと思いました。しかし店舗で聞き取り調査をしたら知らない方がほとんどでした。 (聞き取り25人中アプリを 知っている3人、知らない22人、アプリを入れている方は2名のみ) 自分は非常に便利なアプリだと思います。 捨て方がわからなくて分別しない方は大勢いると思います。 しかし紙ベースで保管は今の時代の合っていないし、資源・コストが多かります。 携帯が1人1台の時代なのでアプリを推奨して普及率があがれば、家庭での分別の意識が向上し効果が上がると思います。 実際店舗には家庭からの持ち込みごみが少なくなはなりません。 店舗でのお客様のごみのマナーが上がれば、店舗からのごみも減少します。 普及率向上を計画に組み入れてほしい。	3R推進課	ごみ分別アプリについては、引き続き普及率向上のため、出し方ガイドや町田市指定収集袋、町田市ホームページでの周知、各種啓発イベントでのチラシ配布等によるPRを行っています。今後も取り組みを進めてまいります。
16 項目なし	委員J	持続可能な食や環境を確保していくために、どのような生活を送るかが問われていると思います。生きることに必要な食や食を支える環境はプラスチック製品、温暖化対策CO2の削減です。ごみを減らす生活が大きく地球の未来にかかっています	環境政策課	市としても、持続可能で環境負荷の少ない都市を目指し、事業計画およびアクションプランを推進していきます。

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

基本方針2 家庭系ごみの減量を進めます。					
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答	
1	2	委員D	情報収集、啓発活動について、適切に遂行いただきたい。	3R推進課	情報収集については、アンケートなどで随時実施していきます。啓発活動についてはコロナ感染状況を考慮しながら最善の手法で実施します。
2	2	委員F	コロナ禍によるライフスタイルの変化により、2020年度は家庭系ごみが増加し、事業系ごみが減少しています。また、家庭ごみが総ごみ量の77.9%を占めていることから、当面は家庭ごみの減量に対する取り組みを強化すべきであると思います。	環境政策課 3R推進課	コロナ禍によるライフスタイルの変化により増えた家庭ごみは、主に生ごみ、プラスチックごみと思われることから、このアクションプランでも具体的に示している取組に重点的に取り組んでまいります。また、事業系ごみの動向にも注視してまいります。
3	2	委員L	重点事業が多く、どの事業をどの程度重きを置いているのかを明確にすべきだと思う。	環境政策課	主にごみ量の削減、資源化量の増加に直接つながるものを重点事業に設定しております。どの重点事業についても、目標達成に向けて不可欠な事業と位置付けております。
4	2	委員L	家庭系ごみの減量は、どうしても市民の協力が欠かせないことはわかるが、働きかけが説明会や情報発信と一辺倒なのは改善すべきだと思う。例えば、市民の家庭のごみを標本調査したり、実際に家庭を訪問して改善すべき生活様式、行動を指摘して、ごみの減量を意識付けたりすべきだと思う。	3R推進課	市民が排出する家庭ごみについては、定期的に組成調査を行っており、ごみ減量の啓発に活かしています。市民自らが調査していただくことは、組成調査はもちろん、市民1人ひとりにごみ問題を自分事としてとらえてもらうことができる機会になると考えています。
5	2-1-1	委員A	フードバンクやフードドライブの団体との連携について、食品の出し手と受け手を繋ぐ役割を市が担えるようになるのではないか（少なくとも活動が普及し、軌道に乗るまでの間）。	3R推進課 環境政策課	いただいたご意見を参考に、食品の供給側と需要側を結びつける仕組みの構築を目指していきます。
6	2-1-1	委員M	家庭系生ごみの減量についてこれまで補助制度を利用し、バイオ生ごみ処理機、たい肥化容器、コンポストを導入して使用してきた。一番の問題は水切り、処理機も容器もメンテナンス費用もかさみ、有効利用できなかった。結局コンポストで堆肥化しているが場所を取られて時間がかかり、防虫対策にも苦慮している。カッカノンほうたいた文句は良いが、扱いが難しい。省スペースで簡単に、衛生的に生ごみ処理できるものがあると普及し、減量につながるかと経験から考える。	3R推進課	家庭で自家処理する方法について調査研究し、普及推進できるような情報を発信していきます。
7	2-1-1	委員C	「生ごみの発生抑制」の①-1では、「賞味期限、消費期限を正しく理解していただいで期限内に食べきってもらうこと等、食品ロスの削減につながる情報収集を行い周知する取組を行います」とあります。このような周知の際に、1-3-3で言及されている情報ツールをどのように使用するのか、具体的な案がしめされると、効果があがるのではないかと思います。	3R推進課	具体的には、町田市ホームページやSNS（ツイッター、インスタグラム、Youtube）で、市民への食品ロス削減に関する周知と同時に、市民からの使い切り料理レシピの募集等、情報ツールを活用していきます。
8	2-1-1	委員B	生ごみ処理機やダンボールコンポストの利用は意欲があっても、住環境等により困難な場合がある。拡充することは重要だが、誰でもできることとして食べ残しをしないことや食品の保管や購入の時の工夫などをより広報することで生ごみそのものの発生を抑えられるのではないかと。	3R推進課	従前から食品ロス削減のPRなど、生ごみの発生抑制について啓発を行っています。今後も引き続き、具体例を挙げながら情報発信を行います。
9	2-1-1	委員E	プラスチックの資源化施設は、南地区で始まったが、他の2地域での用地に確保が遅れている。ごみの大部分は、生ごみとプラスチックであり、その資源化を早急に進めることが求められる。生ごみのバイオガス化施設では、現状では生ごみの量が処理施設の能力を超えているという、生ごみの減量と有効活用の施策を。	3R推進課	資源化施設整備については、早期に施設稼働できるように、引き続き関係各所との調整を行っていきます。生ごみの発生抑制については、食品ロス削減のPRなど、生ごみの発生抑制について啓発を行っています。今後も引き続き、具体例を挙げながら情報発信を行います。
10	2-1-1	委員E	災害時の為の保存食・保存水が賞味期限が過ぎて処分されているケースがあると聞く。高齢化により、家財整理が増加していると思う。有効利用の仕組みを。家庭ごみは無駄な買い物をしないこと。できる限り家庭で調理することにより、包装した物を買わない。	3R推進課 環境政策課	防災安全部防災課と協力して、防災フェア期間（2021年9月6日～9月10日）にローリングストックに関する展示を実施し、保存食・保存水の適切な保管、活用について啓発を行います。家財整理に関する有効利用の仕組みについては、リユース業者との連携を検討してまいります。
11	2-2	委員D	2-2プラスチックについては、基本方針3にも関わるが市内事業者へのプラごみ発生抑制・資源化方針の周知など進めて欲しい。	3R推進課	市内だけではなく広域にわたる課題でもあり、都、環境省とも連携して、市内事業者に対しプラごみ発生抑制・資源化の働きかけを行ってまいります。

基本方針2 家庭系ごみの減量を進めます。					
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答	
12	2-2-2	委員C	プラスチックごみの資源化の推進」の周知では、正確な分別方法などの情報の提示に加えて、マイクロプラスチック問題などの付加的な情報なども、機会があれば伝えられるとよいように思います。	3R推進課	まちだごみ情報紙「ごみナクナレ」8/15号では、主にプラスチックに関する情報発信をしていますが、その中でマイクロプラスチックについて市民に興味を持ってもらえるような情報発信を行っていました。引き続きプラスチックについて考えていただけるような情報発信を行います。
13	2-2-2	委員H	プラスチックごみの資源化の推進については、説明会の内容を具体的に教えていただきたいです。毎年目標値を上げていくなら、その都度同じ内容でやっていくのではなく、その都度更新していくことも必要かと思われます。	3R推進課	市内全域にはプラスチックの基本的な情報を発信し、プラスチックそのものの理解をねらい、回収実施地域では、容器包装プラスチックについて、回収後の資源化について、情報発信していきます。また、プラスチックを取り巻く環境も変化していることから、旬な話題を提供していきたいと考えています。
14	2-2-2	委員D	プラ新法での将来的な分別に関する情報収集を適切に進めて欲しい。	環境政策課	プラスチック資源循環促進法を受けての国や都の動向に注視してまいります。
15	2-3-1	委員A	子供用品の回収については、地域SNSが活用できるのではないか。あるいは、従来の子供会による集団回収の枠組みも活用できるかもしれない。	3R推進課	いただいたご意見を参考にさせていただきます。なお、子ども用品に限らず、リユースの取組についてはリユース業者との連携を検討してまいります。
16	2-3-1 2-3-2	委員B	子ども用品の回収・配布、リサイクル広場などといったともよい取組をより多くの市民に知ってもらい、参加してもらえるような情報伝達の方法を検討していただきたい。	3R推進課	ホームページや広報誌、チラシでの情報発信が主です。この他にも、内容に応じて関連する団体にも情報提供しています。
17	2-3-1 2-4-1	委員M	現在の有料袋のイラストや分別説明等の工夫は大いに評価できるが、一步踏み込んでさらに家庭系ゴミでは組成率の高い生ごみのみの袋の設定や袋の価格の検討に入ってもらいたい。例えば、「水切りごみ」、「燃やすしかないごみ」、「燃やせないごみ」の3種設定。市民の分別の意識も向上し、ゴミの低減、資源化の一助となるのではないかと低減したい。	環境政策課	燃やせるごみの分別を細分化する予定はありませんが、いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。
18	2-3-2	委員M	集団回収の促進呼びかけ 町内会の役員をしており、2020年度の収支報告では資源回収奨励金が557,000円もあり、貴重な収入源となっている。win-winであり、市及び町内会から更なる呼びかけを行うべきと考える。	3R推進課	現状では、地域資源回収を行うことで、地域住民のごみに対する意識を高め、地域内の仲間づくりやコミュニケーションづくりに繋がります。奨励金以外のメリット等についても発信し、多くの地域で活動していただけるよう周知していきます。
19	2-3-2	委員M	資源化率向上の啓蒙について 分別収集の徹底化呼びかけ	3R推進課	毎年配布する資源とごみの収集カレンダーには、各品目の分別方法が記載されております。またごみ分別アプリも配信しています。
20	2-3-2	委員D	雑紙分別に関連し、具体的に「燃やせるごみ」に混入する紙類が何かまで検討し、具体的な対応方法を市民に情報発信すると良い。	3R推進課	燃やせるごみに混入する割合が高い紙類は「雑がみ」です。雑がみの分類について、更なる資源化率向上に向けて、情報発信してまいります。 なお、雑がみはとても種類が多く、組成調査の際にその品目まで割合を出すような詳細な調査をするのは、現実的に難しいと思われまます。引き続き資源化率向上に向けた啓発を行ってまいります。
21	2-3-2	委員M	分別の向上 家庭系燃やせるごみの組成割合を見ると、資源化できる紙及びプラスチックが生ごみに次いで約30%占めている。これらが分別されていけばさらに減量につながる。結局は市民の意識改革がなければ向上につながらないが、一朝一夕には行かないことは明白であり、資源化施設の稼働までにキャンペーンや啓蒙活動を積極的に推進していかなければならないと考える。	3R推進課	引き続きさらなる啓発に努めてまいります。
22	2-3-2	委員E	商店街他各種団体のイベントでごみ施策の取組と3Rを進める意義をアピールしたい。 人の集まる場所、商店街・大型店の店頭等でのリサイクル広場の開催を進める。	3R推進課	これまでも商店街など各種団体と連携して取り組みを進めてきましたが今後も連携して取り組みを進めて参ります。

基本方針2 家庭系ごみの減量を進めます。

項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
23	2-4-1 (1-3-3) 委員K	<p>ごみとして処理する量の40%削減目標が4.7%にとどまったことや、1人1日当たりのごみ量が2018年以来徐々に増加し、多摩地域26市中19位であることから、最大割合を占める家庭系ごみの減量は特に重要な課題であると思われます。しかし結果から判断して、種々のプログラムが有効に機能しているとは考えられません。</p> <p>そこで、ごみ処理手数料の抜本的改革を提案したいと思います。有料化といっても、現在市民が支払うのは指定ごみ袋の売価で、10リットル入り可燃ごみ用の袋の場合、がわすか16円に過ぎません。この金額では、ほとんどの市民はごみ処理料を支払っているとは思わず、ごみ袋を購入しているという意識であろうと思います。そして、16円が処理料であれ袋代であれ、ごみを減量して節約しようとするインセンティブが働きません。</p> <p>袋代を100円程度まで引き上げてはいかがでしょうか。そうすれば支払っているのはごみ処理料であることが明確に認識され、節約とごみ減量へのインセンティブが増すと考えます。</p> <p>現在の袋代16円は、袋の中身であるごみを処理するコストのわずか12%（平均）であると聞いています。袋代を100円にすると同時に、中身の処理コスト（計算上は1,300円）を袋に印刷表示してはいかがでしょうか。ごみ処理に関する理解がより深まると思いますが、市民としての私も袋代の引き上げに抵抗は感じません。</p> <p>ところで、ごみ処理には住民税が使用されているので、有料化は二重取りだという議論もあるでしょう。これに対しては、有料化から得られる収入金額分を減税し、かつ市の財政を透明化してその旨を明確化すれば市民は納得するでしょう。この場合、高所得者は低所得者のごみ処理費用を負担すべきか否かという税の直間比率の問題への対応を検討しておいたほうが良いかも知れません。</p>	環境政策課	<p>いただいたご意見を参考にさせていただきます。なお、家庭系ごみ処理手数料については、社会情勢等を踏まえて料金の設定をしています。</p>
24	項目なし 委員J	<p>商品の購入時には環境負荷の少ないものを選ぶようにします。食品なら皿盛り、袋入りなどを利用します。小さい子どもの時から分別などの仕方を体験してごみの学習をします。食品ロスを減らすため残ったものは冷凍にして次回に食べます。また野菜くずなどは干して水分を飛ばします。</p>	環境政策課	<p>ごみの削減のためには、発生抑制（リデュース）が重要ですので、日々の取組が重要です。市としても、ごみの削減のための効果的な啓発を検討し、実施していきます。</p>

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

基本方針3 事業系ごみの減量を進めます。					
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答	
1 3-1-1	委員L	適正排出に向けた取組の推進で、訪問による現場での指導や講習会等を行うことで、事業者に行動改善を促すとしています。そこで、一時的な指導ではなく、基本施策3-3事業系ごみ処理手数料の見直しの検討といった、事業者側にメリットが出る施策と合わせて、継続的な意識改革、行動改善を促すべきだと思う。	環境政策課	事業系ごみ処理手数料の改定の際の参考にさせていただきます。	
2 3-1-1	委員E	店舗では、大・中型店などは、収集業者に依頼しているが、小規模店は仕入商品の包装がごみとして出され、その仕分けに苦労している。分別の必要性を理解してもらう施策を。	3R推進課	2020年度に商工会議所ニュースにプラスチックの分別についての記事を掲載していただき、周知を図る施策を行いました。今年度は、ホームページなどでより広く周知を図ってまいります。	
3 3-1-1	委員K	事業系ごみの減量は目標に達しているため、市のこれまでの取り組みは評価できると思います。廃棄物処理法は、排出事業者に対して減量化と適正処理を求めているので、市は事業系ごみの更なる減量を目指して、市民に対するより強く行政指導できるのではないのでしょうか。ごみ処理料の大幅な引き上げや、報告義務や立ち入り検査も有効ではないのでしょうか。	3R推進課 環境政策課	いただいたご意見を参考に、適正排出促進に向けた取組みを行ってまいります。	
4 3-1-1	委員K	市の施策では事業系一般廃棄物と産業廃棄物を分別して適正排出することを求めています。両者の区別が明確に理解されているのでしょうか。	3R推進課	一般廃棄物と産業廃棄物の分別については、『事業系廃棄物適正処理ルールブック』を事業者へ配布するとともに、町田市ホームページに掲載しています。今後より理解が広がるよう、周知を行ってまいります。	
5 3-1-2	委員A	まちだ3R賞については、そろそろ本格的なインセンティブ（処理手数料割引など）を検討すべきではないか。	3R推進課	更なるインセンティブについては、他市の取組みや事業者のご意見を参考に検討してまいります。	
6 3-1-2	委員C	「優良事例の公表・拡大」では、多くの事業所に参加してもらえるように、情報発信すると同時に、市のごみ政策に何等かの形で協力している事業所に応募を促すなどを行ってよいのではないかと思います。	3R推進課	ご意見を参考に「まちだ3R賞」の知名度を向上させる取組みを検討してまいります。	
7 3-1-2	委員G	事業所に実際に出向いて良い事例、やり方・方法等の紹介で横展開する。業種別で紹介することで実際に取り組みのきっかけになりやすい。いかに他人事ではなく、自分事に考えて行動してもらえかがポイント。インセンティブを検討していると書かれていますがお金や物品ではなく町田市エコ活動認定店舗等の『称号』が良いと思います。一般企業は地域住民の為に経済活動をして、地域に愛される企業を目指します。地域住民も地域の為に活動・貢献している企業を応援し、消費活動をしていただけます。企業側からの申請ではなく、町田市からの調査という形の方が企業は意識が変わり行動が変わり、結果として事業系ごみの減量化につながります。	3R推進課	取り組みを検討する上での参考にいたします。	
8 3-2-1	委員A	市役所の事業系ごみ削減については、毎月の排出状況をフィードバックしたり、部署毎の排出量を把握するなど、具体的に取組みを強化する必要がある。	環境政策課	いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。市庁舎から排出されるごみ量を削減するための取組を実施し、削減効果を検証します。	
9 3-2-1	委員M	農業研修場ではリス園から出た糞を堆肥化するのに成功し、研修事業に貢献している。コストもほとんどかからず有効。大型生ごみ処理機等から出た残渣を剪定枝とミックスし発酵堆肥化後、剪定枝センターで販売できればごみの減量につながるのではないかと考える。	資源循環課	大型生ごみ処理機等の残渣と剪定枝によるたい肥化につきましては、何度か実験を行っていますが、発酵が上手くいっていない状況です。4-3-1で資源化の拡大を掲げておりますので、この取組みの中で参考にさせていただきます。	
10 3-2-1	委員B	市役所等公共施設がごみ減量やリサイクル推進に率先して取り組むことは事業者に対してだけでなく市民の意識向上にも貢献するものだと思う。エコオフィス活動の成果についてはホームページ等で外部にも知らせることで職員の取組み意欲にもつながるのではないかと。	環境政策課	いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。	
11 3-2-1	委員B	雑誌の1/2程度が溶解されているようで主として個人情報の処理と思われるが、残る量についてはすでに実施されていることは思うが2in1や裏紙使用など再度徹底することが重要と考える。	環境政策課	いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。市庁舎から排出されるごみ量削減のため、関係課と調整し、紙使用量削減に関する取組を検討します。	
12 3-2-1	委員D	丁寧な実態調査と削減可能性についても検討すると良い。意欲だけでは減量は難しく、ペーパーレス等の仕組みの変換が必要と考える。	環境政策課	いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。市庁舎から排出されるごみ量削減のため、関係課と調整し、紙使用量削減に関する取組を検討します。	

基本方針3 事業系ごみの減量を進めます。				
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
13 3-2-2	委員M	2011年に市の農業研修を修了、農地バンク制度を利用し、就農している。農業グループを結成し地域協同の一環でFC町田ゼルビア、成城石井とコラボして活動中である。2016年～2017年にかけてゼルビアキッチンの生ごみ処理機から出た残渣を堆肥化し再利用するプロジェクトを開始したが、レストランで廃棄する食材に油分や塩分が多いため堆肥化できず頓挫した。事業系のゴミ低減で性能の良い生ごみ処理機等の設置補助は堆肥化し再利用するのに有効な手段だと考える。	3R推進課	2015年度から2020年度末までのごみ減量アクションプランの事業系生ごみ減量の取組みで、大型生ごみ処理機の貸し出しを行いました。利用拡大には至りませんでした。今後、フードバンク活動の推進、発生抑制や食品リサイクルの推進に取り組んでまいります。
14 3-2-3	委員A	事業系紙類の資源化については、市役所で拠点回収してはどうか。	3R推進課 環境政策課 資源循環課	公共施設での拠点回収については、適切なスペースを確保することが困難な状況ですが、他自治体の事例等を参考に研究してまいります。
15 3-3-1	委員H	事業系ごみ処理手数料の見直し検討については、町田市は、八王子市、多摩市とは処理手数料は同じですが、隣接している相模原市、横浜市、川崎市の処理手数料と比較した場合、高額となっています。多摩地域だけでなく神奈川県内の近隣市との比較もお願い致します。	環境政策課	事業系ごみ処理手数料の改定の際の参考にさせていただきます。
16 3-3-1	委員F	町田市市内の多くの飲食店は、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置に伴う営業時間短縮や休業の要請により厳しい経営状態に置かれています。また、事業系ごみが減少している事実を踏まえ、当面は事業系ごみ処理手数料の見直しの検討を見送るべきであると思います。	環境政策課	いただいたご意見を参考にさせていただきます。
17 項目なし	委員J	外食は食べられる量だけ頼み、友達などとシェアします。残るようなら持ち帰ります。普段は個人商店を利用して必要な量を買います。調理するときのごみはザルに入れて水切りをしてからごみ袋に入れます	環境政策課	ごみの削減のためには、発生抑制（リデュース）が重要ですので、日々の取組が重要です。市としても、ごみの削減のための効果的な啓発を検討し、実施していきます。

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

基本方針4 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます。					
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答	
1	4	委員B	新しい品目の資源化を検討することと収集体制の見直し、施設整備は並行して行う。	環境政策課	いただいたご意見を参考にさせていただきます。
2	4-1-1	委員L	②燃やせないごみの中から収集後資源化の推進は、現状値が無く、目標値が75%なのは、目標値が高すぎると思う。	循環型施設整備課	ここでいう『燃やせないごみに含まれる資源化物』は硬質プラスチック及び小型家電を指しており、これらについて75%以上の選別制度を確保できると見込んでおります。
3	4-1-2	委員L	①バイオガス化施設の整備・運営も、目標値が高く、その後の年次の目標値が変化していないのはなぜなのか、気になり、改めるべきと思う。	循環型施設整備課	バイオガス化施設を定格稼働させた際の発電量を目標として掲げており、毎年処理量が変わるわけではないため、毎年同じ数値が目標値となっております。
4	4-1-3	委員A	資源化施設の整備については、これまで調整に時間がかかっているため、国のプラスチック資源循環促進法の枠組みの活用も検討すべきではないか。	循環型施設整備課 環境政策課	プラスチック資源循環促進法を受けての国や都の動向に注視しながら、施設の検討を進めてまいります。
5	4-1-3	委員G	今回の会議で設備関係が予定よりも遅れて目標達成できませんでしたがの説明が多かったため、施設が計画通り稼働がスタートし、計画通りの成果が出る様をお願いします。 『ガイアの夜明け』で紹介されている長野県の『モキ製作所』のように生ごみとプラスチックの分別機『破袋分別機』を入れている処理施設もあります。町田市でもそういった設備はあるのでしょうか？ 人の意識で変えられる分別の限界を機械でさらに分別率をあげることでトータルの分別率・リサイクル率が上がります。	循環型施設整備課	資源化施設整備については、早期に施設稼働できるように、引続き関係各所との調整を行ってまいります。 分別機等については、新しい清掃工場はバイオガス化施設を有しておりますが、そちらの施設では、可燃ごみから安定的にバイオガスを取り出すために、異物・プラスチック等の不適合物・磁性物を取り除く装置として、『破碎装置』・『破碎選別装置』・『磁選機』と呼ばれる装置を備えております。また、不燃粗大設備には、『アルミ選別機』『磁選機』を設置し、リサイクル率向上を目指しています。
6	4-2-1	委員A	収集体制の見直しについては、生ゴミの分別収集の可能性も含めて情報収集をして欲しい。	3R推進課	将来的な資源化品目を見据えて情報収集を行ってまいります。
7	4-2-1	委員M	2020年、座間市は小田急電鉄とGPS利用で、ゴミ収集のルート最適化し、収集に要する時間を短縮するというシステムの実証実験を開始し、効率化(短縮)した時間を利用して、燃やせるごみの分別に当て、2021年4月、5月の2か月間だけで燃やせるごみを480トン削減したとのこと。来年度からの新施設稼働を契機に、環境負荷の低減はもちろんのこと、様々な現行の取り組みに加えて更なるアクションプランの構築も必要ではないかと考える。	3R推進課	アクションプランの取り組みを更に充実させるため、先進市の視察等情報収集を行い、検討してまいります。
8	4-2-1	委員H	収集体制の見直しについては、各事業者ではドライバー不足が深刻な問題となっています。土日休みでない、人材が集まらない状況の為、現在月から土までの週6日回収から月から金の週5日回収への見直しをお願い致します。	3R推進課	収集体制の見直しにつきましては、市民、事業者、行政それぞれの課題を整理しながら、検討を進めてまいります。
9	4-3-1	委員C	「資源化の拡大」のリサイクル広場で回収している資源の品目の検討拡大においては、今後、町田市の一般家庭による分収収集の品目に加えることができるような実験的な品目なども検討してはどうかと思います。	3R推進課	リサイクル広場については、行政回収の品目の増に向けた実験としての役割も想定できることから、いただいたご意見を参考に検討を進めてまいります。
10	4-3-1	委員J	人口の減少、超高齢化(消費が美德と育った年代)にともなって家庭ごみ、資源ごみの変化に対応した対策が求められると思います。紙パンツ(おむつ)の普及がもっともっと進むでしょう	環境政策課	紙おむつの資源化について、国や東京都の動向を注視し、リサイクル事業者と調整してまいります。

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

基本方針5 社会的課題への対応を強化します。				
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
1 5-1-1	委員L	①災害廃棄物処理計画及び行動マニュアルの見直しをするのはいいと思うが、それを重点事業にすべきではないと思います。ごみの減量・資源化には平時の取組が大きな影響を及ぼし、基本施策5-3不適正処理防止対策など、実際に効果が目に見える方が、定量的で良いからです。	環境政策課	大規模災害時に大量に発生するがれき等を迅速・適切に処理し、市域全体の迅速な復旧・復興に寄与するためには重要と考え、重点施策としております。
2 5-1-1	委員G	災害時の対応 町田市の対応・市民の対応・事業者の対応などを図解したものやフローチャートにした分かり易いものが欲しいです。緊急時だからこそ見れば分かるレベルにしないと、電話が殺到→職員の仕事が増える→予定通り行動できない→市民・事業者に波及し→大混乱に陥ってしまう。	環境政策課	いただいたご意見を今後の参考にさせていただき、平常時から市民に分かりやすい広報に努めます。
3 5-1-1	委員K	取り組むべき社会的課題として挙げられている災害時のごみ処理についてですが、職員行動マニュアルの策定は重要であり、良い取り組みであると思いますが、これに加えて市民の行動や心得のマニュアルがあっても良いかと思えます。より重要なのは、災害が発生した時に既存の法令や規制を一時的に停止・変更する内容と手続きを定めておくことと思えます。	環境政策課	いただいたご意見を今後の参考にさせていただき、平常時から市民に分かりやすい広報に努めます。
4 5-2-1	委員H	高齢者に対応した収集体制の検討については、ふれあい収集については年々対象者が増えて回収時間に影響が出ていたり、コロナによる対面での回収の問題等が出ている為、回収時間に影響が出ないような工夫もお願い致します。	3R推進課	円滑な収集ができるよう体制構築の工夫に努めます。
5 5-2-1	委員K	超高齢社会への対応は、高齢化が進んでいる例えばつくし野地区で強化されるべきでしょう。ふれあい収集事業の拡充は特に求められます。資源の戸別収集も良いのですが、資源を分別することそのものが困難になっているのではないのでしょうか。	3R推進課	高齢化が進んでいることから課題として認識しており、周辺市などの取り組みなど動向を注視してまいります。
6 5-3	委員G	違法回収・不法投棄・持ち去りに関してパトロールで人を割くよりも、長い目を見て防犯カメラの導入で監視するほうが安全で記録に残ります。	3R推進課	防犯カメラの有効性については認識しており、現在13台設置しています。今後も不法投棄防止対策として活用してまいります。また、防犯カメラでは抑止できない案件もあり、市職員によるパトロールや対面指導も重要だと考えております。
7 5-3-1	委員L	不用品の違法回収防止対策の推進の主な実施手法が「情報発信」なのは、心もとないと思う。	3R推進課	不用品の違法回収防止対策については、違法回収業者等への指導体制を確立し、指導強化に努めます。また、市民が違法業者の利用による被害に遭わないよう、情報発信を行ってまいります。
8 5-3-2	委員K	不適正処理防止には、不法投棄対策が最重要かと思えます。人はきれいなどころにはごみを捨てにくいといわれますが、つくし野地区では行政や自治会の努力で道路や公園はきれいになり、ごみの散乱はあまり見られなくなりました。しかし廃棄物を扱う業者によると思われる不法投棄が散見されます。罰則の強化や行政による強い指導が必要ではないでしょうか。一方、道路や公園のごみを拾って歩くボランティアがいます。自発的なので行政は把握していないかもしれませんが、気がついた人からの報告を得て表彰する仕組みがあればよいと思えます。	3R推進課	不法投棄対策については、多発地区や市民要望より防犯カメラ（定点式）を設置してます。また、指導業務に関しては、警察機関と連携強化して取り組んでいます。表彰については近隣市での取り組みなど情報収集をします。
9 5-3-3	委員B	まち美化の推進は町をきれいにするだけでなく、海ごみ問題にもつながることを意識してもらいながら実施できるとよいと思う。	環境保全課	今後のまちの美化推進の参考にさせていただきます。
10 5-3-3	委員D	まちの美化に関して、近年話題となっているマイクロプラの要因となる散乱ごみ対策としても重要ということが明示されると、市民の協力度も上がる可能性があると考えます。	環境保全課	今後のまちの美化推進の参考にさせていただきます。
11 5-3-4	委員C	「持ち去り行為防止対策の推進」に関しては、多くの市民は、持ち去りを目撃しても、どうしたらよいのか（どのような行動をするのが適切なのか）よくわからないのが現状なのではないかと思えます。パトロールはもちろん重要だとは思いますが、そういった行為を市民が目撃したときにその情報を市にどのように伝えるのかなどを含めて検討する必要があるのではないかと思います。	3R推進課	現在、市や警察への連絡と持ち去り行為者の情報提供のお願いをHPで案内しています。今後も関係機関への働きかけと広報活動の強化を図ります。
12 5-3-4	委員M	不法持ち去り 数年前古紙の価格が高いころ、町内の資源ごみ置場で新聞紙の持ち去りを目撃し、聞いたところ市役所から許可を受けているとの回答だったので、市役所に電話したがそのような事実が無く、直接聞わないように言われた。市民への注意喚起を兼ねて、不法投棄と同じような看板を作成配布してはどうか費用対効果は不明であるが、看板設置により就農地でのごみの不法投棄が減ったのは事実である。	3R推進課	持ち去り行為が頻発するごみ集積所には、地域住民の持ち去り防止意識向上と持ち去り行為への啓発を目的とした看板を掲示しています。ご意見を参考に、今後取り組みを進めてまいります。

基本方針5 社会的課題への対応を強化します。

項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
13 項目なし	委員J	ハザードマップなどを普段から確認して災害時の対応を考えて行動できるようにして、公園、広場を確認します	環境政策課	市としても、市民の皆さまに日頃から災害時に備えていただくことが重要と認識しています。
14 項目なし	委員E	環境問題は世界共通の問題として、国、行政、経済産業団体、個人各界が認識され、プラスチックの将来への悪影響、脱炭素化、食料の安全保障等緊急の課題となっている。	環境政策課	市としても、持続可能で環境負荷の少ない都市を目指し、事業計画およびアクションプランを推進していきます。

2021年度事業計画についての意見シート及び市の回答

その他意見				
項目番号等	委員名	意見	担当課	回答
1	その他 委員B	コロナの収束が見込めず、予定した事業が実施できない場合があると思うが、「できなかった」で終わるのではなく、方法を変えてできる範囲で少しでも前進するような努力が必要だと思う。	3R推進課	大規模事業所の現状確認については、立入検査の実施が困難になったため、効果的な指導内容を検討し、電話でのヒアリングおよび調査や助言を行うようにしています。 イベント出展など対面式の啓発が困難な状況が続いている中、SNSや動画配信等のWebを利用した情報発信を積極的に進めていきます。また、リモート環境が整っている場合には利用する等、状況に合わせた啓発も行っていきます。 今後も、新型コロナウイルス感染防止を勘案して、実施できる方策を検討します。
2	その他 委員M	環境省の統計を見ると2019年 1人1日あたりのごみ排出量 全国平均 918g 東京都平均 871gであり、人口10万人以上自治体では上位20位以内に東京多摩地域の10市が入っている。評価すべき数字はあるが日本全体で燃やすごみと焼却施設の数は世界一であることを深く認識し更なる低減と資源化を推進しなければならない。条件が類似する他自治体の減量実施策や成功しているキャンペーン等の参考も一助になると考える。	3R推進課 環境政策課	日本国以内のごみ量の順位など鑑みながらの事業展開も必要だが、それだけにとらわれることなく国全体と一緒に展開できるような事業展開も必要と考えます。食品ロス削減の取組における「全国おいしい食べきりネットワーク」など、全国的な施策バンクが整備されているものについては、有効活用させていただいています。町田市に類似した自治体の事業についても含め、引き続きさまざまな情報収集を行い、効果的な啓発を行えるよう努めます。
3	その他 委員D	基本方針2に関連すると思うが、「燃やせるごみ」の排出量削減が喫緊の課題と考えます。継続的な周知、広報、など啓発については、例年通りではなく、具体的な減量方法など検討し周知すべきかと考えます。	3R推進課	ごみ減量についての継続的な周知、広報などの啓発については、市民に関心を持っていただき実際の取組につながるような内容の発信をしていきます。 分析に基づき、その時点での効果的な啓発をその都度検討して行っています。現在は、消費税増税や新型コロナウイルス感染拡大に伴い、容器包装に係るごみのほか、断捨離によるごみ量の増加がみられることから、これらに対する啓発を行っています。
4	その他 委員G	町田市・市民・事業者がお互いがウインウインの関係になれるような意識改革・行動改革が長く継続できる仕組みだと思えます。 そのためのデメリット・メリットの明確化が必要です。デメリットがあったとしてもメリットを得たいと思えば行動は変わります。 全員が賛成し、やってくれるとは限りませんが、批判や苦情などを受けることもあると思います。しかし一定以上(60%以上)の支持が得られれば遂行し、結果を公表すれば批判も減り支持が上がると思います。 その為の会議・打ち合わせは、企業としての協力はできる限りさせていただきます。	環境政策課	市民・事業者・市との連携を強化し、各人が主体的、継続的にごみ減量に取り組める環境づくりを目指しています。 いただいたご意見を今後の施策の参考にさせていただきます。引き続き、長く継続できる仕組みづくりに向けたご協力をお願いいたします。
5	その他 委員K	市立図書館で「3Rマップ」という小冊子を見つけました。また、東急の駅で「ごみ減量で地球を冷やそう」という広報誌を手に入れました。私は環境に関心があるのでもすぐ目に留まりましたが、一般の市民は普通のPRチラシとして気に留めないと思います。 基本方針1への意見でも述べましたが、最も重要なのは、いかに一般の市民の関心を引き、いかに行動を引き起こすかだと思います。立派な計画書や報告書を作るのは容易ですが、目的達成にはあまり役に立たないのではないのでしょうか。 そこで、「市民を動かす」ことを計画の第1の目標としてはいかがでしょうか。私の住宅地でも、道路掃除等の活動で住民が定期的集まる機会があります。そのような機会を利用して出前講座等によって情報提供や市民啓発をしてはいかがでしょうか。都会化が進むと「隣は何をする人ぞ」となりがちですが、自治会の活動を通じてお互いを知り合せて、気を使い合うことになって、環境保護の重要性に対する共通認識も生まれ、協力する機運もできるのではないのでしょうか。	3R推進課	委員ご指摘のように、市民の関心を引き、行動を起こしてもらうことが大切と考えています。自治会や町内会を対象としたごみ減量の出前講座を行っております。コロナ禍で対面での活動はなかなか難しいところですが、ぜひ委員の皆様のご地元などでも出前講座等を実施させていただき、地域の皆さんに行動を起こしていただけるような仕掛けをさせていただければと思っております。
6	その他 委員K	基本計画達成状況の資料は、ごみ処理量の40%削減はバイオガス化設備や資源化施設が整備できなかったために4.7%削減にとどまったこと、資源化率54%の目標は資源整備が期間内に完了しなかったことで25.1%となったこと、生ごみ100%資源化はバイオガス化施設の整備ができなかったためであること、そして容器包装プラスチックの6,700トン資源化目標は資源化施設の整備が進まなかったため420トンにとどまったと述べている。 目標と達成値の差がこれほど大きい原因は何でしょうか。野心的目標を立てることは良いとしても、目標を達成する条件を分析、予測して、現実的な目標を立てることはできなかったのでしょうか。行政への信頼度にかかわりかねない問題であろうかと思えます。	環境政策課	前計画では、施設整備が計画期間内に完了しなかったこと、ごみの減量・分別が進まなかったことから、目標を達成できませんでした。 新しい計画ではごみの削減目標や資源化見込量等を精査し、1人1日当たりのごみ排出量を7%削減すること、総資源化率を40%にすることを目標としています。